

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（1）大学・学科の設置理念

①大学

昭和24年に開学した本学は、「仏教精神を基調として徳操を養い、教育基本法の本質に基づき、学校教育法第83条の趣旨による大学教育を施し、温雅高潔な女子を育成すること」を設置理念として、その実現に努め続けている。

単に知識や技能の修得に留まらず、時代・社会がいかになら変わろうとも、人間としての真の姿を求めていく敬虔な姿勢の醸成をその根底に置き、いのちを大切にし、人々の福祉に貢献しうる人材を育成することが本学の教育理念である。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

データサイエンス学科では、データサイエンスに関する教育・研究を通じて、社会の諸課題を発見する感性、科学的に洞察するためのデータ収集・処理・分析能力を身につけ、企業、行政等をはじめとした社会の様々な場面で、データサイエンスの深い教養と専門知識を活かして課題解決に貢献できる人材の養成を目的としている。

また、上記の目的に基づき、卒業までに身につけるべき能力・資質として下記6項目を設定し、学士課程を通じて所定の課程を修め、132単位を修得することによって、データサイエンス学科における到達目標を達成したものと見なし、学位を授与する。

（1）[知識・理解]

社会の課題を洞察し、データを活用した課題解決・価値創造に取り組むにあたっての基盤となる、統計学、情報学、経済学・経営学等のデータサイエンスに関する専門的知識を有している。

（2）[汎用的技能]

- ① 課題に関連するデータを効果的に選定・収集・処理できる。
- ② データが得られた分野を十分理解した上で、データサイエンスのスキルを駆使してデータを適切に処理・分析できる。
- ③ データ分析から得られた結果の意味を適正に解釈し、課題解決・価値創造に向けた方策を考案できる。

（3）[思考・判断]

様々な事象から取り組むべき課題を論理的思考力と多角的な視野によってとらえ、データに基づいて検証・判断できる。

（4）[対話・相互理解]

他者を尊重しながら、論理的なコミュニケーションによって相互理解・調整に努め、様々な人々と協働できる。

（5）[社会性・自律性]

社会の一員としての自覚とデータサイエンティストとして必要な倫理観を備え、自己の良心と社会の規範に従って行動できる。

（6）[自立性]

自ら目標を設定し、目標に向かって主体的に取り組むことができる。

(2) 教員養成の目標・計画

①大学

本学の教員養成の歴史は、大正7年（1918年）に京都女子高等女学校に尋常小学校の正教員免許状が授与されたことにはじまり、約100年の歴史を有し、以来、教員養成に対する実績を残し、京都を中心とする近畿圏のみならず、全国に多数の教員を排出している。教員養成に対してこのような伝統と歴史を有する本学には、教員を目指して入学する学生も多い。

本学の設置理念である“心の教育”を基礎として「心豊かでたくましく生きていくことができる子どもを育成する資質・能力と、他者との相互理解に努め、社会と協働して問題解決にあたるグローバルな視点を身につけた教員」を養成し、高い志と情熱・行動力を持つ教員志望者を育成することは、社会貢献という観点からもその意義は大きいと認識している。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

「数学」は中学生、高校生が必修として学ぶ教科であり、経済・社会活動においても必要となる知識・考え方を学ぶ重要な教科である。また「情報」は、生活のあらゆる場面に情報技術が浸透した現在、その重要性はますます高まっており、このような状況の中で、学習指導要領の改定に伴い、高校教科「情報1」が必修化された。この2つの教科は、今後さらに世界的なデータ・AI社会を支える2科目であり、カリキュラム内容における共通項が多い。

本学のデータサイエンス学部データサイエンス学科における「数学」「情報」教員養成は、データサイエンスの基盤となる数理・統計学、情報学の双方を丁寧に身につけた、これからのデータ・AI社会において必要な人材養成に対応できる教員養成を目的としている。具体的には、数学だけでなく周辺領域としてデータを読み解く統計学にも精通した数学科教員や、データ処理・AI活用等を深く理解した情報科教員である。

これらの人材養成の目的に照らし、教科教育に加えて、数学においては、初年次における「数学への招待」「確率・統計への招待」「線形代数学」等の入門的な科目から、年次進行に合わせて「代数学」「幾何学」「多変量解析」「時系列解析」など発展的な数学の科目を履修することで、高度な数学の素養を身につける。情報においては初年次における「プログラミングへの招待」「プログラミングI」から、年次進行に合わせて「データ構造とアルゴリズム」「数値解析」「マルチメディア処理」「画像処理」などの発展的な情報学の科目を履修することによって、高度な情報の素養を身につける計画である。その他の科目においても、課題解決に向けて適切なデータを収集・加工・整理し、統計学を用いて読み解くための多様な科目を体系的に配置する。

なお、いずれの領域も初年次においては進度に合わせた複数クラス開講や、講義科目と演習科目をセットで開講する等により、丁寧にスキルを身につけていく工夫をおこなっている。

これに加え、指導法の科目や演習科目等を通して、指導に関わる専門的力量、豊かな教養、コミュニケーション能力を含む対人関係処理能力の向上を図り、さらに人間性と社会性を兼ね備えるとともに、実践的な指導力や教育に対する情熱を併せ持つ中学校・高等学校教諭（数学）及び高等学校教諭（情報）の養成を目指すことを教員養成理念とする。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

(I) 中学校教諭一種免許状（数学）

2019年度の経済協力開発機構（OECD）の調査で、日本はSTEM（科学・技術・工学・数学）分野における女子学生の比率が加盟国中で最低の割合であり、女性のSTEM人材の育成が遅れている状況にある。データサイエンス学科における中学校教諭一種免許状（数学）では、線形代数、微分積分などの数学の基礎や、中学校数学科の関数の概念、増加量、変数間の比例関係などの理解につながる解析学、多項式の扱い方、方程式の解の意味、定数と変数の概念などの理解につながる代数学、中学校数学科の簡単な対称や移動の概念、論証の手続きと意義などの理解につながる幾何学、「同様に確からしいこと」「場合の数」などの理解につながる確率論に加え、ヒストグラム・箱ひげ図の描き方・読み方、数学的確率と統計的確率、標本調査の概念の理解につながる統計学の科目を配置した教育課程を設置し、単に数学だけでなくデータサイエンスの素養を兼ね備えた女性教員養成に取り組む。

データサイエンスの専門的知識を修得した女性教員を養成することは、女性のSTEM人材拡大や生徒にとってのロールモデルの提示にも繋がり、小学校教育から接続し義務教育が完成する中学校において教育を行うことで、将来的にデータサイエンスの理解につながる数学的素養を生徒に身につけさせることができる。

(II) 高等学校教諭一種免許状（数学）

2019年度の経済協力開発機構（OECD）の調査で、日本はSTEM（科学・技術・工学・数学）分野における女子学生の比率が加盟国中で最低の割合であり、女性のSTEM人材の育成が遅れている状況にある。データサイエンス学科における高等学校教諭一種免許状（数学）では、線形代数、微分積分などの数学の基礎や、高等学校数学科の関数の定義域と値域、関数の極値、関数の増減、微分・積分の基礎的概念などの理解につながる解析学、多項式の諸定理、複素数の概念などの理解につながる代数学、座標の変換、行列計算、平面幾何学の定理、立体図形の性質、2次曲線の分類などの理解につながる幾何学、事象と確率、確率変数、確率分布、正規分布に関する定理などの理解につながる確率論に加え、代表値の概念、確率変数、確率分布、母集団分布と標本分布、推定と検定などの理解につながる統計学の科目を配置した教育課程を設置し、単に数学だけでなくデータサイエンスの素養を兼ね備えた女性教員養成に取り組む。

データサイエンスの専門的知識を修得した女性教員を養成することは、女性のSTEM人材拡大や生徒にとってのロールモデルの提示にも繋がり、高等教育機関への進学や就職にあたって基盤となる数学的素養を生徒に身につけさせることができる。

(III) 高等学校教諭一種免許状（情報）

これからのデータ・AI社会においては、情報学のスキルによりデータを分析しその結果を読み取り、人工知能を活用して様々なことを判断させたり、情報機器によってもたらされる情報を適切に選択・活用して問題を解決していくことが必要である。このような社会の流れをふまえて高等学校においては「情報I」が必修となり、プログラミングだけでなく、ネットワークや情報セキュリティ、データベースの基礎などについて求められている。

一方で情報科教員の人材不足が問題となっており、単にプログラミングだけでなく、情報学を活

用した課題解決につながる学びが設置されているデータサイエンス学科に、高等学校教諭一種免許状（情報）を設置することは人材が不足している情報科教員の養成に資するものである。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

①

組織名称：	教職支援センター
目的：	教育実習事前・事後指導や介護等体験の事前・事後指導、教員採用試験対策（面接指導等）、OG 教員支援、学校ボランティア活動に関するアドバイス等を行い、全学的な教職課程の運営及び指導的役割を担うことを目的とする。
責任者：	教職支援センター長（学長が指名・委嘱した専任教員）
構成員（役職・人数）：	（1）教職支援センター長 1名（学長が指名・委嘱した専任教員） （2）センター専従の教員 3名 （うち1名が副センター長（センター長が指名）になる。） （3）事務系職員
運営方法：	（1）教職支援センターにセンター長を置いて、教職課程を全体的に運営する。 （2）専従の教員を配置することにより、教育実習指導（教育実習、介護等体験等）の役割を担う。 （3）教育実習中のトラブルや学生からの相談については、各学科の教職課程相談員と教職支援センターが対応策を協議し、学科・専攻教員と連携して指導にあたる。 （4）京都府・市教育委員会等との連携を推進して、地域と連携した教育実習や地域貢献のためのボランティア活動等を強化する。 （5）現職教員の研修に関する業務、教員育成協議会等、地域と連携した活動を推進する。 （6）教員採用試験対策や連合教職大学院進学指導等の相談に関して得られた情報について、各学科と情報共有し、教職課程における指導体制の点検材料とする。 （7）教職課程自己点検・評価（FD/SD、業務・研究成果の公表等）活動を推進する。

②

組織名称：	教職支援センター運営委員会
目的：	本学の教職課程全体の方針を決定し、教職課程カリキュラムや教育実習指導体制等、教職課程全体の自己点検・評価を行い、教職課程の充実を図ることを目的とする。
責任者：	委員長：教職支援センター長（学長が指名・委嘱した専任教員）
構成員（役職・人数）：	（1）委員長（教職支援センター長が兼任） （2）副委員長（同副センター長が兼任） （3）教職課程を有する学科・専攻（国文学科、英文学科、史学科、教育学科教育学専攻、教育学科養護・福祉教育学専攻、教育学科音楽教育学専攻、児童学科、食物栄養学科、生活造形学科、現代社会学科、法学科 及び データサイエンス学科）より選出された教員 各1名 （4）副学長（教育・学生支援）の指名する教員 若干名 （5）教務課長 ※事務局：教務課
運営方法：	教職支援センター運営委員会で決定した事項を学修支援専門部会に報告し、了承を経て全学に周

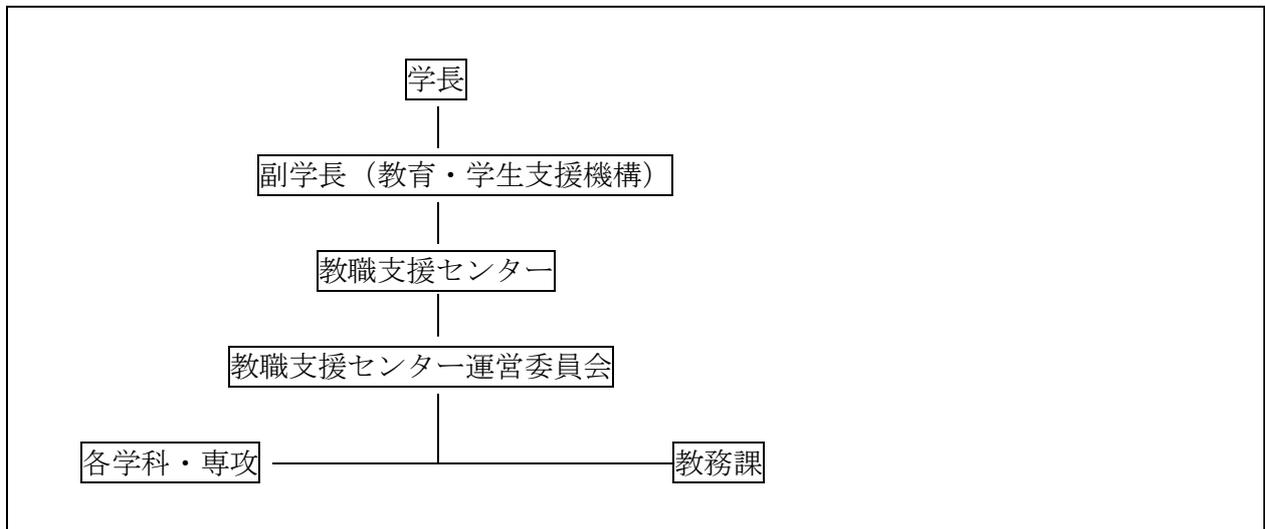
知する。

開催頻度：年間 10 回程度

審議事項：

- (1) 教員養成に係る基本方針の策定に関すること
- (2) 教育実習に関すること
- (3) 介護等体験に関すること
- (4) 学校ボランティア活動に関すること
- (5) 各学部・学科等が抱える教職課程の課題解決に関すること
- (6) 卒業生教員の支援や現職教員の研修に関すること
- (7) 教員採用試験に対する支援に関すること
- (8) 連合教職大学院の運営事務及び進学支援に関すること
- (9) 教職課程の自己点検・評価及び研究成果の公表に関すること
- (10) その他、センターの業務に関すること

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

全国初の教育コースを設置した奈良県立高田高等学校、大阪府立高槻北高等学校、及び教育みらい科を設置する京都市立塔南高等学校と教育連携にかかる協定を締結し、各高校の教員養成課程における教育内容の充実や種々の活動について協力体制を組んでいる。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

①

取組名称： 京都府、京都市、大阪府、大阪市、堺市、滋賀県等の「教師塾」

連携先の調整方法： 各地域の教育委員会と調整し、学生を募集している。

具体的な内容： 各地域の教育委員会が教員志望者の資質向上のために開講している教員養成講座に参加

②

取組名称： 京都市、京都府乙訓・山城・南丹教育局、滋賀県、大阪市、神戸市、 京都女子中学校・高等学校 等 学生ボランティア
--

連携先の調整方法： 活動先と調整し、学生を募集している。

具体的な内容： ボランティア（学習支援、クラブ活動、体験活動等）

Ⅲ. 教職指導の状況

(1) 学修ポートフォリオ

学修ポートフォリオ機能を使用して、学生自身が主体的に学修成果を定期的に振り返り、学修の達成度を確認し、問題点や課題を把握できる環境を整えている。学習目標に対する自己評価等を入力し、取り組むべき課題や目標を見つけ、学生自身がステップアップを図ることを目的としている。教職課程に関する自己分析も同時に行う。

(2) 各学科・専攻教員との教職面談

毎年年度当初（4回生は4月と9月の2回）に各学科・専攻教員と面談を行い、教職課程履修に関する指導を受ける体制を整えている。

(3) GPAによる履修制限

各学年終了時の累積GPAが定められた基準に達していない場合、次年度の教職課程履修を制限する基準を設け、指導している。また、GPAが一定の基準を下回った場合、アドバイザーが面談する。

(4) 「教職課程相談員」

各学科・専攻より「教職課程相談員」として選出された教員が、教育職員免許状に関する相談、具体的には各学科・専攻で取得可能な教員免許状に関連した履修方法や時間割に関する相談に対応している。

＜データサイエンス学科＞（認定課程： 中一種免(数学) ）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>大学生としての基礎能力及び教員を目指すための基本的資質の育成を目指し組織されたカリキュラムから、すべての学生がデータサイエンス学科の学生としての自覚と誇りを持つことを目標とする。</p> <p>また、教職課程履修の意義を認識し、自らの積極的な教職志望の意志を吟味するとともに、教育の理念及び歴史・思想並びに生徒の心身の発達及び学習過程に関する基礎知識を修得し、教職を志す意識の確立を目指す。</p> <p>更に、教職に関する基礎的素養として、外国語コミュニケーション、体育、情報機器の操作を学び、修得する。</p>
	後期	<p>教職を目指すことの意義、教師としての責任、「教えること」と「学ぶこと」の基本的関係等、教育学の基礎理念を身につけ、自らの進むべき方向性を徐々に確立していくことを目標とする。</p> <p>また、教職に関する基礎的素養として、外国語コミュニケーションを学び、修得する。</p> <p>なお、1年次終了時において教職課程履修記録を作成し、教職課程担当教員との個別面談により教職課程履修継続の意志を自ら確認する。</p>
2年次	前期	<p>学習指導要領を基準とした教育課程の意義や編成方法、教科「数学」の目標や全体構造、教育方法の基礎的理論を理解すると同時に、学校における道德教育の意義を理解する。</p> <p>また、日本国憲法の全体像や人権についての理解を深め、教職に就くにあたっての基盤を固めると同時に、教科の専門領域に関する知識を修得する。</p> <p>さらに、学校教育現場を知るための体験としてスクールボランティア等に自主的に参加する。</p>
	後期	<p>数学科教員として必要な専門的知識を修得すると同時に、特別の支援を必要とする生徒に対する理解を深め、特別支援教育に関する制度や教育課程、教育的ニーズ、支援の方法等を理解する。</p> <p>年度末の教職課程履修面談において自らの適性を確認し、教職課程履修継続を再確認したうえで、介護等体験に向けた主体的取組ができていくことを目標とする。</p>
3年次	前期	<p>教科「数学」に関する専門的な知識や学習指導理論を理解し、具体的な授業を想定した学習指導案の作成方法等を身につけると同時に、教育課程における生徒指導の意義や原理、学校における生徒指導の進め方や教育相談の意義と理論を理解する。</p> <p>更に、スクールボランティアへの参加などを通じて、学校教育に参画する意識を高めたうえで、4年次の教育実習に向け、教育実習の準備を行うと同時に、介護等体験により、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。</p>
	後期	<p>教科「数学」に関する専門的な知識や学習指導理論を理解し、具体的な授業を想定した学習指導案の作成方法等を身につけると同時に、学校における特別活動及び総合的な学習の時間の意義及び内容、学校と地域との連携、学校安全、進路指導・キャリア教育の意義等について理解する。</p> <p>教職課程担当教員による履修面談により、教職課程及び教育実習の意義とその責任を自覚したうえで、意欲的に教育実習に臨むことができる準備ができていくことを目標とする。</p>
4年次	前期	<p>協力実習校における教育実習を通して学校教育の実際を体験的、総合的に理解し、実践的な能力を身につけるとともに、教員免許取得までにさらに修得すべき知識・技能を理解する。</p> <p>教育実習の事後指導や教職課程面談により、自らの教職志望を最終確認するとともに、教育専門職である教師を多面的に理解し、教育現場に進んでいこうとする心構えができていくことを目標とする。</p>
	後期	<p>4年間にわたる教職課程での学びの最終段階として教職実践演習(2年生～4年生の各年度の初めと4年生後期の初めに実施する教職面談をすべて受け、教職カルテを作成していることが履修の必須要件)を履修して、自己の課題を自覚し、さらに必要な知識・技能等を補てんすることにより、教員として求められる使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、教科の指導力等を身につける。</p> <p>本学の教育理念及び教員養成理念に照らして最終確認を行い、教職課程を修了し、学位を取得する。</p>

<データサイエンス学科>（認定課程： 中一種免（数学））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称							
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称					
1年次	前期	2	B	教育原論	数学への招待		運動と健康科学	価値創造への招待	
		2	E	教育心理学	確率・統計への招待		スポーツ実践		
								英語 I A1	
								英語 I A2	
								情報リテラシー	
	後期	2	C	教職論	線形代数学			英語 I B1	
					線形代数学演習			英語 I B2	
					解析学 I				
					解析学 I 演習				
					統計学入門				
				プログラミング I					
2年次	前期	1	A	数学科教育法1	代数学	人権教育論	日本国憲法		
		2	G	教育課程論	幾何学				
		3	H	道德教育論	プログラミング II 演習				
					プログラミング II				
	後期	1	A	数学科教育法2	回帰分析			データサイエンス実践概論	
		2	F	特別支援教育論				実験計画法	
	3	QR	教育方法論 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。)						
3年次	前期	1	A	数学科教育法3				計算機統計学	
		3	LM	生徒指導論 (生徒指導論と教育相談)				最適化理論	
	後期	1	A	数学科教育法4					
		2	D	教育行政学					
		3	N	進路指導論					
		3	IJ	特別活動及び総合的な学習の時間指導法					
4年次	前期								
	後期	4		教職実践演習(中・高)					
	通年	4		教育実習論					
		4		教育実習					
	4		中学校教育実習						

＜データサイエンス学科＞（認定課程：高一種免(数学)）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>大学生としての基礎能力及び教員を目指すための基本的資質の育成を目指し組織されたカリキュラムから、すべての学生がデータサイエンス学科の学生としての自覚と誇りを持つことを目標とする。</p> <p>また、教職課程履修の意義を認識し、自らの積極的な教職志望の意志を吟味するとともに、教育の理念及び歴史・思想並びに生徒の心身の発達及び学習過程に関する基礎知識を修得し、教職を志す意識の確立を目指す。</p> <p>更に、教職に関する基礎的素養として、外国語コミュニケーション、体育、情報機器の操作を学び、修得する。</p>
	後期	<p>教職を目指すことの意義、教師としての責任、「教えること」と「学ぶこと」の基本的関係等、教育学の基礎理念を身につけ、自らの進むべき方向性を徐々に確立していくことを目標とする。</p> <p>また、教職に関する基礎的素養として、外国語コミュニケーションを学び、修得する。</p> <p>なお、1年次終了時において教職課程履修記録を作成し、教職課程担当教員との個別面談により教職課程履修継続の意志を自ら確認する。</p>
2年次	前期	<p>学習指導要領を基準とした教育課程の意義や編成方法、教科「数学」の目標や全体構造、教育方法の基礎的理論を理解すると同時に、学校における道德教育の意義を理解する。</p> <p>また、日本国憲法の全体像や人権についての理解を深め、教職に就くにあたっての基盤を固めると同時に、教科の専門領域に関する知識を修得する。</p> <p>さらに、学校教育現場を知るための体験としてスクールボランティア等に自主的に参加する。</p>
	後期	<p>数学科教員として必要な専門的知識を修得すると同時に、解析学における様々な統計手法を理解する。</p> <p>また、特別の支援を必要とする生徒に対する理解を深め、特別支援教育に関する制度や教育課程、教育的ニーズ、支援の方法等を理解する。</p> <p>年度末の教職課程履修面談において自らの適性を確認し、教職課程履修継続を再確認したうえで、介護等体験に向けた主体的取組ができていないことを目標とする。</p>
3年次	前期	<p>時系列解析など高度な解析を学びながら、教育課程における生徒指導の意義や原理、学校における生徒指導の進め方や教育相談の意義と理論を理解する。</p> <p>更に、スクールボランティアへの参加などを通じて、学校教育に参画する意識を高めたうえで、4年次の教育実習に向け、教育実習の準備を行うと同時に、介護等体験により、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。</p>
	後期	<p>教科「数学」に関する専門的な知識や学習指導理論を理解し、具体的な授業を想定した学習指導案の作成方法等を身につけると同時に、学校における特別活動及び総合的な学習の時間の意義及び内容、学校と地域との連携、学校安全、進路指導・キャリア教育の意義等について理解する。</p> <p>教職課程担当教員による履修面談により、教職課程及び教育実習の意義とその責任を自覚したうえで、意欲的に教育実習に臨むことができる準備ができていないことを目標とする。</p>
4年次	前期	<p>協力実習校における教育実習を通して学校教育の実際を体験的、総合的に理解し、実践的な能力を身につけるとともに、教員免許取得までにさらに修得すべき知識・技能を理解する。</p> <p>教育実習の事後指導や教職課程面談により、自らの教職志望を最終確認するとともに、教育専門職である教師を多面的に理解し、教育現場に進んでいこうとする心構えができていないことを目標とする。</p>
	後期	<p>4年間にわたる教職課程での学びの最終段階として教職実践演習(2年生～4年生の各年度の初めと4年生後期の初めに実施する教職面談をすべて受け、教職カルテを作成していることが履修の必須要件)を履修して、自己の課題を自覚し、さらに必要な知識・技能等を補てんすることにより、教員として求められる使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、教科の指導力等を身につける。</p> <p>本学の教育理念及び教員養成理念に照らして最終確認を行い、教職課程を修了し、学位を取得する。</p>

<データサイエンス学科>（認定課程：高一種免（数学））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称							
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称					
1年次	前期	2	B	教育原論	数学への招待		運動と健康科学	価値創造への招待	
		2	E	教育心理学	確率・統計への招待		スポーツ実践		
								英語 I A1	
								英語 I A2	
								情報リテラシー	
	後期	2	C	教職論	線形代数学			英語 I B1	
					線形代数学演習			英語 I B2	
					解析学 I				
					解析学 I 演習				
					統計学入門				
2年次	前期	1	A	数学科教育法1	代数学	人権教育論	日本国憲法		
		2	G	教育課程論	幾何学	道徳教育論			
					解析学 II				
					多変量解析 I				
					プログラミング II 演習				
					プログラミング II				
	後期	2	F	特別支援教育論	回帰分析				データサイエンス実践概論
		3	QR	教育方法論 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。)	多変量解析 II				実験計画法
3年次	前期	1	A	数学科教育法3	時系列解析			計算機統計学	
		3	LM	生徒指導論 (生徒指導論と教育相談)				最適化理論	
	後期	2	D	教育行政学					
		3	N	進路指導論					
		3	IJ	特別活動及び総合的な学習の時間指導法					
4年次	前期								
	後期	4		教職実践演習(中・高)					
	通年	4		教育実習論					
		4		教育実習					

＜データサイエンス学科＞（認定課程：高一種免(情報)）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	自らが大学入学前に持っていた教員志望の意志の確認および適性の吟味の機会となる時期である。教職課程のカリキュラムの内容とその修得の意義を確認したうえで、「教育の基礎的理解に関する科目等」の科目を実際に受講し始めることによって、その基礎知識を習得し、教職を志す意識を確立することを目標とする。
	後期	「教科に関する専門的事項」の科目として「プログラミングⅠ」を履修し、プログラミングに関する基礎知識の習得と同時に、自らの教員としての適性を自己吟味する。教職課程履修記録を作成し、教職課程担当教員との個別面接の場を設け、今後も継続して真剣に教職課程を履修する意志を確認することを目標とする。
2年次	前期	データサイエンス学科の主要カリキュラムを構成する専門科目の履修が開始される。情報系基礎科目を履修し、言語Pythonによるプログラミングやアルゴリズムに関する基礎知識を習得する。また、教職に関する科目の履修により、情報科の教育目標や指導内容を理解し、教員を目指す自己の姿勢を明確にすることを目標とする。
	後期	学科専門科目から情報系科目を中心に履修しながら教員としての自己の適性を吟味することが求められる。年度末には、教職課程担当教員との履修面接を行い、教科課程履修継続についての自らの意志を確認し、それに基づく教職への主体的取り組みができていくことを目標とする。
3年次	前期	「教育の基礎的理解に関する科目等」の科目については、生徒指導の意義や原理、学校における生徒指導の進め方や教育相談の意義と理論を理解する。 「教科に関する専門的事項」の科目については、学科専門科目と並行して履修し、データベースや情報ネットワーク、マルチメディアを含んだ幅広い知識の習得を目指す。また、4年次の教育実習のため、実習校確保の手続きを行う。
	後期	「教育の基礎的理解に関する科目等」の科目については、学校における特別活動及び総合的な学習の時間の意義及び内容、学校と地域との連携、学校安全、進路指導・キャリア教育の意義等について理解する。 「教科に関する専門的事項」の科目は大部分の履修を終える。スクール・ボランティア等についても、自主的に参加することを求める。教職課程担当教員による履修面接を経た時点では、教育実習、教員採用試験受験という具体的進路を目指す決意が固まっていることを目標とする。
4年次	前期	協力実習校における教育実習を実施し、教育現場における具体的教職体験を通して教員志望者としての自覚を深める。教育実習終了後、教職課程担当教員との履修面接を行い、自らの意志と適性について最終確認をする。教育専門職としての教員を多面的に理解し、教育現場で働く心構えができていくことを目標とする。
	後期	教職実践演習(2年生～4年生の各年度の初めと4年生後期の初めに実施する教職面談をすべて受け、教職カルテを作成していることが履修の必須要件)の履修により、本学科の教職課程を修了する。教職実践演習においては、教師としての専門性が一定レベルに到達しているかチェックし、教師に向けた自己の確立を目標とする。この教職実践演習により、教職課程履修者の教員資質を保証する。

<データサイエンス学科>（認定課程：高一種免（情報））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称							
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称					
1年次	前期	2	B	教育原論	プログラミングへの招待		運動と健康科学	価値創造への招待	
		2	E	教育心理学			スポーツ実践		
								英語 I A1	
								英語 I A2	
	後期							情報リテラシー	
		2	C	教職論	プログラミング I			英語 I B1	
2年次	前期	1	A	情報科教育法1	プログラミング II	人権教育論	日本国憲法	データ処理演習	
		2	G	教育課程論	プログラミング II 演習	道徳教育論			
					データ構造とアルゴリズム				
	後期	1	A	情報科教育法2	データサイエンス社会実装論				データサイエンス実践概論
		2	F	特別支援教育論	人と組織のマネジメント				AI・機械学習 I
		3	QR	教育方法論 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。)					AI・機械学習 I 演習
3年次	前期	3	LM	生徒指導論 (生徒指導論と教育相談)	データベース			AI・機械学習 II	
					情報ネットワーク				AI・機械学習 II 演習
					マルチメディア処理				
	後期	2	D	教育行政学	情報倫理・情報社会				
		3	IJ	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	ソフトウェア設計				
		3	N	進路指導論	Webプログラミング				
				画像処理					
				数値解析					
4年次	前期								
	後期	4		教職実践演習(中・高)					
	通年	4		教育実習論					
		4		教育実習					